

九條武子さま—その行動の根源にあるもの(攝取不捨・本願力回向)—

小池秀章

〔讃題〕

十方微塵世界の 念仏の衆生をみそなはし

攝取してすてざれば 阿弥陀となづけたてまつる (『浄土和讃』571)

(数限りないすべての世界の 念仏する人々をご覧になって

摂め取って捨てないので、阿弥陀と名づけ申し上げる)

※「攝取して」の左訓

摂め取る。ひとたびとりて永く捨てぬなり。摂はものの逃ぐるを追はへ取るなり。

摂はをさめとる、取は迎へとる

※もの：人のこと

①和歌(『無憂華』(17)より)

いだかれて ありとも知らず おろかにも われ反抗す 大いなるみ手に

(阿弥陀さまの大いなるみ手(お慈悲)の中に、いだかれていることも知らないで、愚かにも、私は反抗する、大いなるみ手に)

②和歌(『無憂華』「巻頭の歌」より)

おほいなる もののちからに ひかれゆく わがあしあとの おぼつかなしや

(大いなる阿弥陀さまのはたらきに導かれている、

私が今まで残してきたものの、何と、はっきりせず、たよりないことか)

③「聖夜」(『無憂華』(83・84)より)

1. 星の夜ぞらのうつくしさ たれかは知るや天のなぞ

無数のひとみかゞやけば 歡喜になごむわがこゝろ

(夜の星空の美しさ 誰が知るであろうか天(宇宙)の謎を

無数の瞳が輝いているので(無数の星の輝きは仏さまの眼のようで、

その眼差しの中に包まれていると思うと) 喜び一杯で和やかになる私の心)

2. ガンジス河のまさごより あまたおはするほとけ達

夜ひるつねにまもらすと きくに和めるわがこゝろ

(インドのガンジス河の砂の数より 多くおられる仏さまが

夜昼、いつもまもってくださると 聞かせていただく時 和やかになる私の心)

以上